宮崎県公立高校入試徹底分析【国語】

【形式・難易度】

試験時間	50分	配点	100点
問題構成	大問は文学的文章・説明的文章・資料の読み取り・古典の４題構成である。漢字を含めた知識事項は各大問にそれぞれ配置されている。文学的文章・説明的文章ともに配点は例年と同じ30点だが、各大問の後半の問題は配点が高い問題が多く、後半で正解を導き出すためには、しっかりとした読み取りが必要である。 ［一］　文学的文章。設問は6問。配点30点。出典（小説：まはら三桃『疾風の女子マネ！』） ［二］　説明的文章。設問は6問。配点30点。出典（説明文：毛内拡『読書する脳』） ［三］　資料の読み取りと話し合い。設問は5問。配点20点。発言原稿の作文あり。 ［四］　古典。設問は5問。配点20点。出典（古典：漢文『蘇軾』・古文：『おくのほそ道』） 古文と漢文を併記し、2つに共通する事柄を読み解く問題。		

	令和８年度(2026)	令和７年度(2025)	令和６年度(2024)	令和５年度(2023)	令和４年度(2022)
問題量（Ａ４で）	7ページ分	7ページ分	7ページ分	7ページ分	7ページ分
小問数	22問	21問	24問	21問	23問
論述問題の数	6問	6問	６問	７問	5問
論述問題配点	29点	27点	29点	29点	28点
受験者平均点	―	62.6点	57.7点	67.0点	51.9点

【出題の傾向と対策】

①［一］　**文学的文章。**過去の体験を語ることにより、主人公の心情が変化する場面が描かれている。

問四　次の［　　］の文は、文章中の―線②「小刻みに打っていた動悸がおさまっている」理由を説明したものである。（1）に入る内容を、二十字以内で書き、（2）に入る内容を、三十字以内で書きなさい。

胸の鼓動が高まっていたときには、（１）気持ちになっていたが、（２）ができて、気持ちが落ち着いたから。

☞（解答）１　（例）過去の苦い経験を思い出して恥ずかしい

２　（例）自分のせいで負けたのにマネージャーのせいにしたと話すこと

☞考え方と傾向

咲良の「うわーっ、思い出すわ」という発言の後に「胸の鼓動がスピードを上げた」とあり、（1）に入る心情が述べられている。その気持ちが落ち着いたきっかけとなった「過去の体験を語ったこと」を字数に合わせ具体的に（2）に入れれば良い。このようにどのような「出来事」が「心情」の変化を起こしているか、丁寧に読み取ろう。理由説明の「胸の鼓動が高まった」と似た意味もしくは同じ言葉を本文中から探し、そこから「動悸」の元となる主人公の心情と、そのきっかけとなる出来事をそれぞれ本文中から探し、字数に合わせて解答を作成する。

②［二］　**説明的文章。**中心段落から要点を抜き出し、字数にあわせて解答をまとめる力が求められる。

問四　次の［　　］の文は、文章中の―線②「読書に伴う『未完了感』」が「精神的自由」につながる理由を説明したものである。（　）に入る内容を、文章中の［　　］で囲った部分の言葉を使って、四十字以内で書きなさい。

本を読み終えた時に、（　　）から。

☞（解答）（例）疑問や解釈の余地などが残ることで、自分なりの解釈や新たな視点を創造しようとする

☞考え方と傾向

［　　］内の文章は三つの段落に分かれている。「未完了感を感じること」はそのうち二段落目にあるが、、その内容が一段落目に、「精神的自由」＝「自発的な思考や解釈」であることが三段落目に書かれてある。それぞれの段落の要点をおさえ、指定字数内で答えをまとめる。

③［三］　資料の読み取りと話し合い。資料を正確に読み取り、話の流れを踏まえて意見文を作成する。

〈話し合いの様子〉の　―線③を踏まえて、あなたが図書委員なら、「授業に関連して、興味・関心がわいたことを電子書籍で調べる」ことをテーマに、〈図書便り〉にどのような文章を書きますか。次の〈図書便り〉の記事の［　　］に入る文章を、後の〈条件〉に従って書きなさい。

〈図書便り〉

皆さんは、電子書籍を使ったことがありますか。［　　］
まだ使ったことのない人は、ぜひ一度電子書籍を利用してみて下さい。

（条件）

・電子書籍の便利さについて、〈資料C〉を踏まえて書くこと。・テーマに沿った具体例な活用場面を書くこと。

・九十字以内で書くこと。・敬体（です・、ます調）で書くこと。

☞（解答）（例）電子書籍は、何冊もの書籍を手軽に持ち運べる点が便利です。例えば、国語の授業で興味をもった作品の舞台について調べる際に、どこででも地図や歴史書など複数の資料を読むことができます。

☞考え方と傾向

記事原稿に脱文を挿入する問題で、〈話し合いの様子〉の意見を参考にしながら、誰もが納得する電子書籍の「利便性」と、わかり易い「具体例」を図書委員の立場からの意見で考えられるようにする。近年は、資料を読み取り、自分の考えを記述する問題や、立場から適した文言を考え記述する問題など、自分の考えだけではなく、多角的に物事を見て文章を記述する問題が出題されている。それぞれの条件に対応して書くことができるように練習しておこう。

④［四］　古典。同じテーマの漢文と古文の併記出題が定着。返り点や仮名遣いなどの定番問題だけでなく、共通する内容や教訓などを読み取る。

問五　次の［　　］は、授業で漢詩Aと古文Bを鑑賞したときの対話である。

（1）～（3）に入る適当な言葉を、（1）、（2）は漢字二字で書き、（3）は十字以内で書きなさい。

……

陽太　そうだね。たとえ方が違うところが面白いよ。漢詩Aでは西湖という湖の風景を（1）が（2）した風景にたとえているけれど、古文Bでは、象潟の風景を雨にぬれるねむ花のようだといい、（1）が目を閉じている姿にたとえているよ。

明里　漢詩Aでは西湖の風景は（3）と詠んでいるけれど、古文Bの俳句では、象潟の雨の風景だけを取り上げて詠んでいるんだね。

☞（解答）（例）西施　　２　（例）化粧　　３　（例）晴れも雨も美しい

☞考え方と傾向

本文は漢詩と古文のどちらも、「西施」という人物のたとえを用いることで、風景の美しさを表現しているが共通している。現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことが重要である。